

体育で培ったことを発揮する運動会に

いよいよ運動会の日が迫ってきました。保護者の皆様におかれましては、日々のお子さんの体調管理や様々なご準備を本当にありがとうございます。

運動会に向けた取り組みの中で大事に考えてきたのは、1時間1時間の授業を、「本番のために練習する時間」ではなく、「体育としての学びの場」にすることです。運動会も、イベント的なものというよりも、子ども達が体育の学習で培ってきたことを発揮する場になればと思っています。そのことに重きを置く故に、簡略化している事柄もあります。ご了承頂ければと思います。ぜひ子ども達が体を動かす心地よさを感じる姿をご覧いただければと思います。

5,6年生の表現。子ども達が、曲から受けた印象をいかに動きとして表すか、自分たちで試行錯誤し、学んでいます。お昼休みに、空き教室



で練習する姿もありました。そして、それを見つめる1年生の姿が。音楽会でも、高学年のがんばりが低学年によい影響を与えていました。運動会でも、そんな姿が見られるのではないかと期待しています。



また、9月9日のPTA作業では、暑い中、保護者の皆様と5・6年生が、校庭の草取りや草刈りをしてくれました。そのおかげで気持ちよく運動会ができます。本当に、ありがとうございました。



相手の気持ちを考える(相手意識)を育む

2学期始業式にお話したことを、ご紹介します。

1学期末のこと。さようならの後、一人の1年生の女の子と、校長室前の水槽前で話をしました。水槽の中には、かわいい花のついた浮き草の飾りが浮いています。流されて、いつも水槽の端に行ってしまうので、その子は水槽の真ん中に浮かべてほしいと言います。



そこで、写真のように水槽の真ん中に浮かべてみました。でも、その子はこれではダメだと言います。反対だと言います。でも、反対側にはプラスチックの根がついているだけです。不思議に思いながら、逆さにして浮かべました。するとその子は、これでいいと言います。どうしてだか分かりますか。

その子は、続けてこう言いました。「お魚さんに見せたいから」自分が、きれいなお花を見られればいい、ではなく、お魚さんがうれしくなることを、その子は考えていました。この姿のような「相手の気持ちを考える=相手意識」、それから「自分で考えて行動する=主体性」を、この2学期大切に生活したいと思います。



ゲームをするときの頭の中

9月12日に学校保健委員会が行われました。スクールカウンセラーの恵谷美香先生に、5,6年生と保護者のみなさんに、思春期における心の発達等についてお話し頂きました。思春期の入口に立つ高学年の子ども達。少しずつ子どもから大人へと成長する時期であり、その内面を理解し、気持ちに寄り添うことが重要な時期でもあります。そんな点で、様々なご示唆を頂ける内容でした。詳しくは、保健だよりをご覧ください。講演会后、恵谷先生からゲームとの関わりについて、以下のお話もお聞きました。

日々生活していると、めんどくさいことはたくさんある。でも、ゲームの世界の中では、直ぐに報酬が与えられる。そのためゲームに過多にはまり込んでしまい、脳の報酬系が麻痺し、実際に汗をかいて何かに取り組むことを脳が喜ばなくなる。何でそんなことしなきゃいけないのか、そんなことするより、座って画面に向かえばいい、といった思いが先行してしまう。そうすると、我慢する気持ちがなかなか育まれないのだそうです。やはり、ほどほどが大事なのだと思いました。

それよりも、五感を使って活動する。太陽を浴びて、セロトニン(やる気物質)を出して活動する。我々がものを覚えたり、考えたりすることに大きく関わるニューロン(神経細胞)の数は、12歳までに決まるのだそうです。その後は、延びはするけれど数は増えない。今の大事な時期、ニューロンを増やすためには、五感を使って活動することが大事なのだそうです。



お出かけ美術館

茅野市美術館で開催された
 展覧会「CONTACT」に出品した4人の作家さんが、本校に作品を持ち込み、8月25日に鑑賞と表現をつなげた授業を行いました。子ども達は8つの縦



割り班に分かれ、2時間目に対話による作品鑑賞を行い、3時間目は作品づくりを行いました。写真の活動は、画用紙にたらしした墨の形から見立て、思いついたものをわりばしペンでかき込んでいます。

芸術は全て、体験しないと本当に理解はできない。子ども達は、鑑賞したときに感じたことをもとに、表現していました。作家さんの作品に向かう心遣いや細やかさも伝わっていたと思います。